

## 次回へとつなぐ目標達成！！

第1戦と打って変わり終始、晴れ渡り天候に恵まれたなか富士チャンピオンレースシリーズ第2戦を迎えた。第1戦での反省であった、『正確さ』と『ブレーキング』に意識する。今回の目標を決勝で10位以内、1分53秒台に入ること为目标に設定した。

5月14日 フリー走行 1本目 10:10~10:40 天気 晴れ 路面状況 ドライ 湿度38% 気温18℃ 路温26℃  
レースウィークの土曜日、翌日に本番を控えた1本目。

前回から引き続き、セクター3(ダンロップコーナから最終コーナ)の走行ラインにテーマを置いた。他の車両とセクター3を比較した時にタイムが明らかに遅かった為、今回もコース外から見てもらいライン修正を行った。結果、自分のイメージしていたラインと実際に走っているラインが違っていたことが判明した。途中、スピンした車両がコースを塞いでしまう形で動けなくなってしまい赤旗中断。

5分延長され終了した。

Best time 1' 55" 80

フリー走行 2本目 11:40~12:10 天気 晴れ 路面状況 ドライ 湿度40% 気温19℃ 路温41℃

1本目が終了してからログーを見直し、自分のペダルワークでスロットルの開き方を指摘された。あわせて、ブレーキを頑張りすぎる為にクリップ付近での車両速度やマシンの挙動が安定していないところも指摘された。

2本目はペダルワークの丁寧さ、ブレーキングから旋回のボトムスピードを見直して、旋回時のスピードを下げて走ることを意識した結果、自分の操作に余裕ができ、立ち上がりのアクセルワークも丁寧に操作が出来た。タイヤが寿命に達した為タイムの更新は出来なかったが、安定したラップタイムを出すことが出来た。

フリー走行 3本目 14:20~14:50 天気 晴れ 路面状況 ドライ 湿度38% 気温19℃ 路温40℃

1本目と2本目を総合して、3本目はセクター3のラインとブレーキングから旋回、立ち上がりでのスロットルの開き方を総合して見直した。usedタイヤだった為、タイムを出す走行ではなく車の動き、動かし方、走行ラインの見直しに徹底した。タイヤの寿命が来ていた為に改めて分かった事があり、newタイヤを装着した時にはマシンがどういう動きをするかを想像しながら走り、3本目が終了。翌日の予選、決勝に備える。

5月15日 予選 10:25~10:45 天気 晴れ 路面状況 ドライ 湿度20% 気温19℃ 路温32℃

予選が20分間の為、誰の後ろについて走るか、何周アタックするか、コースインするタイミングなど計画をたてた。しかし、ピットを離れる際のポジション取りが悪く、思ったようなアタックが出来ずにいた。途中、後ろに自分よりタイムが速いドライバーが居たので、自分の前を譲り、仕切りなおして1lapだけアタックした。その周にBest timeをマークし、自己ベストも更新した。しかし、前日のフリー走行の『良い感じ』がなく、newタイヤを装着してグリップが上がったことによりリズムが崩れてしまっていた。まだまだ改善の余地がたくさんあった。

決勝 15:45~(12Laps) 天気 晴れ 路面状況 ドライ 湿度17% 気温20℃ 路温36℃

前回、スタートでエンジンをストールさせてしまっているのと同じミスは出来ない。いざ、スタート。クラッチミート時にアクセルを開け過ぎて、ホイールスピンをさせてしまい、1コーナーに入るときに1台に抜かれてしまう。しかし、オープニングラップのダンロップコーナーで1台オーバーテイク。

4周を過ぎるころには13番手までに上がる。5周目にはトップの方で2台クラッシュして11位にポジションアップ。最終コーナーで1台オーバーテイクを仕掛けるが、ブレーキトラブルで止まりきれずにコースから大きくはみ出てしまい、ポジションを1つ落として12位になる。しかし、8周目に、1コーナーで1台をオーバーテイクし11位まで巻き返した。その後はブレーキのトラブルで思うようにタイムが伸びず、11位のままチェッカーを受けた。競技終了後に5周目のクラッシュ時のドライバーに1周減算のペナルティが科せられ10位に繰り上がり、公式結果が発表された。

## 総評

今回のレースでドライビングテクニックや走行ライン、レースの組み立てなど一皮むけたように感じる。

第1戦の反省で出ていたブレーキングの正確さやコーナリング時の『ロール』を今回のレースを通じて認識できた。予選が終わり、決勝までの時間を使って監督やメカニックと入念なミーティングを行った結果、自己ベスト 10位 タイムも1' 53" 853を更新した。 次回の第3戦ではより正確なドライビングを目標に、予選開始時のコースインするポジション取りに注意して、予選から自己ベスト以上のタイムを出し、決勝では入賞を目指したい。

決勝中のBest time 1' 53" 853を記録。自己ベストも更新した。

中村監督コメント 個人の目標をクリアした事は評価できます。

更に上を目指し努力して欲しいです。



スーパーFJ 富士チャンピオンレースシリーズ 第2戦  
田中選手6位で入賞

前回、富士の開幕戦では練習不足がたり、予選、決勝と満足いく内容とはいえませんでした。開幕戦が終わってから短期間で第2戦が開催されたため、もっぱらドライビングのイメージ構築、トレーニングした。今回の目標は、①1分52秒台に突入する事、②決勝で表彰台に乗ることの二つとしました。

- 5月12日 1本目ドライ。単独で走行し、かろうじて53秒台に入る。ユーズドタイヤではあったものの、開幕戦で得られたイメージの再現を試みた。今年のシャシー(10V)はドライビングをミスしたときのリカバリーをマシンがしてくれるので、勝負に有利な感触を得た。またトラクションの掛かりがよく、ブレーキ → ターンインの動作が重要になると感じた。
- 2本目、3本目 途中から雨が降り出したので雨用セッティングのトライを行った。  
マシンの挙動と雨ラインの確認は出来たが、速さに繋がるどうかは比較できなかった。
- 5月14日 全走行ドライ、タイヤは比較的状态の良い前回のレース落ちを使用した。練習走行からコーナー進入、立ち上がり、走行ラインを数パターン、3~5周ずつ試したが、どれもしっくりこない。加速時のマシン挙動には安心感があるが、減速→ターンイン時のリア挙動に不安感があり、全コーナーとも思い切った飛込みが出来ずにいた。監督、メカニックと相談し、コーナーアプローチを重点的に修正するようにアドバイスをもらい、走行を消化した。しかしながら慎重になりすぎ、旋回速度を落とすことに繋げてしまいタイムは54秒から上がらないままだった。
- 5月15日 前は後方グループに捕まってしまったため、今回は好タイムを出すグループに着いて走りたい。しかし、ピットアウトのタイミングを逃し、後方グループのなかに紛れ込んでしまった。焦りからシフトアップのミスを連発し24台中10番手で予選を終えた。次戦は1周待ってでも速いグループの中に入り込めるようにタイミングを合わせたい。
- 5月15日 決勝 スタートは割と上手く決まり、3週目からファイナルラップまで4つ巴の競り合いとなった。ほぼ毎コーナーでブレーキ勝負になったが、前車を抜こうとして失速した際に後方車両にかわされる場面もあった。ファイナルラップのダンロップコーナーでブレーキ勝負して1台かすことができた。ペース的にはさらに前のもう一台もかわせそうだったが、最終コーナーで競り負け6位でレースを終えた。

**総評** 今回のレースを自己評価すると予選50点、決勝65点というところでは今年、KK-Sから10Vに乗り換えて感じた事が有ります。コーナー進入は両者とも同じ、立ち上がりはマシン特性も手伝って若干10Vが有利と感じています。決勝を通じてコーナー進入の理想系にはだいぶ近づいてきたのですが、毎ラップとも同じ操作が出来ていません。マシンを乗りこなすにはもう少し時間がかかりそうな感じが有ります。今回応援に来てくださった皆さんからは「4つ巴のバトルは本当に見ごたえがあった」と言ってもらえました。リザルトはタナボタもあり不満ですが、見てる人が面白いと感じるレースが出来た点については満足していますし、大変うれしく感じています。次戦はさらに活躍できるように尽力致します。

**中村監督コメント** アルビレックスRTとして今年度の入賞目標を前半戦でクリアでき、大変嬉しくおもいます。所属選手達も着実に実力をつけ、次戦では全選手で表彰台を狙っていきます。田中選手は今回我慢のレースでしたが、精神的に大きく前進いたしました。今後とも応援宜しくお願いいたします。



Nankai Plan Co.,Ltd.



鈴木会計  
埼玉・川口  
<http://www.tcnf.com/sds>

P PLUS

Moty's  
HYPER LUBRICANT TECHNOLOGY

